

式 辞

三か年の螢雪の功を積み、今ここに卒業証書を授与された第七十五期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

本来ならば、地域の方々をはじめとする、ご来賓の皆様方に、ご臨席を賜るところではございますが、皆さんもご承知の通り、新型コロナウイルス感染症の影響により、ご遠慮いただいた次第でございます。

さて、卒業生の皆さん。ただ今一人ひとりに手渡した卒業証書は、中学校の全課程を修了した証です。また、同時に、九年間の義務教育を修了したことになります。今まで、家族の方々の温かい励ましや地域の皆様からのご支援、そして、先生方からのご指導によって健やかに成長し、今日の日を迎えることができました。多くの支えがあつたことを忘れないでいてほしいと思います。

それでは、卒業式にあたり、私からは皆さんに「間違いを犯したことのない人とは、何も新しい

ことをしていない人のことだ」という言葉を贈りたいと思います。

これは、「一般相対性理論」を提唱し、ノーベル物理学賞を受賞した、ドイツの理論物理学者アインシュタインが残した言葉です。

新しいことに挑戦しなければ、間違うことでも失敗することも経験せずに済みます。「失敗しないこと」を優先して過ごしていれば、進歩も新しい発見も生み出せないのでしょうか。

アインシュタインのように、間違いや失敗を恐れずに、何度も挑戦することはとても大切なことです。とは言え、同じことを繰り返すだけでは意味がありません。チャレンジ精神が旺盛なことは良いことですが、同じ失敗を繰り返しても前に進むことはできません。

「問題が生じたときと同じ考え方をしていたら解決はできない」と、同じくアインシュタインは言います。失敗をしたときは、まずは原因を徹底的に検証するとともに、別の角度から問題を見直し、新たな発想を生み出す努力が必要です。

常に新しいことに挑むチャレンジ精神と、失敗

に向き合い、これまでの考え方を変える柔軟性。失敗をプラスに転じて成果を手にするためには、この両方が必要であるということです。

チャレンジする気持ちを持ち続けることと、そして、多角的な広い視野で物事を見ることが如何に大事なことであるかを教えてくれています。

同じ方法では解決にいたらない時にこそ、どのような手立てをうつことができるのか、そこに、人の知恵や創意工夫が満ち溢れていると思います。卒業生の皆さん、是非ともそういった知恵を身につけて、これから進みゆく人生が、心豊かなものであってほしいと願っています。

最後になりましたが、保護者の皆さん、お子さまのご卒業、誠におめでとうございます。これまで、本校の教育活動に、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。

この三年間、私たち教職員一同は、子どもたちの成長を第一に考え、時には優しく時には厳しく教育活動に取り組んで参りました。子どもたちの行く手には、思いもよらない出来事が待ち構えているかもしれません。しかし、子どもたちはこの

住吉中学校で培った「生きる力」を原動力として
乗り越えていってくれることと信じています。

今後も、引き続き、本校へのお力添えを賜りますようよろしくお願ひ申しあげます。

卒業生の皆さん、お別れの時が近づいてきました。皆さんにお渡しました「卒業証書」は、皆さんを待ち受ける明るい未来へのパスポートです。

チャレンジし続ける気持ちと柔軟な考え方を持つことを忘れずに、どうか幸せな人生を歩んでいってください。

皆さんの前途に開ける輝かしい未来を祝して、
私の式辞といたします。

令和四年(二〇二二年)三月十一日

大阪市立住吉中学校

校長 坂井 伸治